

「公印省略」

27農林試第262号
平成27年4月20日

各関係機関団体の長 } 殿
各病虫害防除員

福岡県農林業総合試験場長
(福岡県病虫害防除所)

技術情報第3号

麦類赤かび病の防除について (第II報)

平成27年4月2日付の技術情報第1号で、麦類の赤かび病を対象とした出穂期後の適期防除をお知らせしたところです。本年度は出穂期後に降雨が多く、本病の発病に好適な気象条件となっているため、天候の回復次第、速やかに防除を徹底し、被害の拡大防止に努めましょう。

- 1 対象作物：小麦、大麦
- 2 病虫害名：赤かび病
- 3 気象情報（福岡管区気象台発表）
 - (1) 4/9～15の一週間の気温は、期間の中頃を除いて平年を下回り、1週間平均では低かった（平均気温平年差 -0.9°C ）。また、降水量はかなり多く（平年比212%）、日照時間は少なかった。
 - (2) 1ヶ月予報（4月16日発表）によると、向こう1か月の平均気温のうち、1週目（4/18～24）は平年より高いとされている。また、週間天気予報（4月19日発表）によると、向こう一週間（4/20～26）の期間のはじめは曇りや雨となる日があるが、期間の中頃からは、晴れる日が多いとされ、最高気温と最低気温はともに平年並みか平年より高く、降水量は平年より多いとされている。
- 4 防除対策
 - (1) 本病が最も感染しやすい生育時期および本病の発病に好適な気象条件となっているため、第1回目防除の7～10日後を目安に、天候回復後速やかに防除を行う。
 - (2) 防除に当たっては、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を遵守する。特に、小麦、大麦で農薬使用基準が異なる薬剤が多いので注意する。また、周辺圃場への飛散防止対策を講ずる。
 - (3) 降雨の合間に薬剤防除を行う場合、液剤は散布後一旦乾けば降雨があっても薬剤の効果はある。しかし、粉剤の場合は、散布後6時間以内に降雨があった場合は薬剤の効果

が低下するので、降雨情報に注意する。

- (4) 小麦の防除適期は開花期（出穂期後 7～10 日頃）～開花最盛期である。
- (5) 二条大麦の防除適期は、穂揃期の約 10 日後（出穂期後 12～14 日、蒴殻が抽出し始める頃）である。
- (6) 裸麦の防除適期は、穂揃期（出穂後 2～4 日頃）である。
- (7) 出穂期は、播種日、品種及び今後の気温の変動等により異なるので、第 1 表を参考に、ほ場ごとの出穂状況を把握し、適期防除に努める。

(参考)

第 1 表 農林業総合試験場における麦類の出穂期（平成 27 年 3 月 23 日発表）

麦種	品種名	播種期	予 想 出穂期	平年差	前年差	調査地点
小 麦	シロガネコムギ	11/20	4/5	-3	-3	大木町
	チクゴイズミ		4/9	-2	-2	筑紫野市
	ちくしW2号 (ラー麦)		4/5	-2	-2	大木町
			4/8	-2	-2	筑紫野市
大 麦	ほうしゅん	11/25	4/9	-2	±0	筑紫野市
	しゅんれい		4/9	-3	+1	筑紫野市
	はるしずく		4/2	-4	±0	大木町

注 1) 平年値は H16～H25 年播の平均値。

注 2) この値は暫定値で、今後変更することがある。

注 3) ちくしW2号（大木町）、ちくしW2号（筑紫野市）、しゅんれい、はるしずくの平年差はそれぞれ、前 6 年、前 5 年、前 5 年、前 7 年の平均を示す。

注 4) 予想出穂期は今後の気温が平年並で推移した場合の出穂期。

過去の播種期および出芽期から出穂期までの積算温度とこれまでの積算温度および麦の生育状況から予想した。